

考える授業やるキット | 社会

実態に合わせたアレンジ

仙台市立蒲町小学校 教諭 佐竹直人

- ・番組や思考ツールの使い方に慣れてきた教師・学級に向けた活用のヒント
- ・「考える授業やるキット」を「アレンジする意義とは何か」を理解
- ・「やるキット」を「授業で発展的に活用する」ためのアレンジ方法のポイント
- ・「やるキット」を「家庭での学び」と結びつける一例

1. はじめに ～「考える授業やるキット」の授業をアレンジする意義～

先行きが見通せない、変化の激しい時代を迎え、「将来を見据えたときに必要な力は何だろう」と想像してみます。

平成 29 年に告示された学習指導要領では、育成を目指す資質・能力が「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の 3 つの柱に整理されましたが、それぞれの資質・能力には「生きて働く」「未知の状況にも対応できる」「学びを人生や社会に生かそうとする」といった文言も合わせて示されています。

総じて考えると、「学んだことをどのように生かしていくか」が求められているのだと解釈できるでしょう。

学んだ知識や技能を「生きて働かせ」、学習の過程で培った思考力・判断力・表現力を発揮して「未知なる状況にも対応できるように」し、学んだことを「どのように人生や社会に生かすか」を考えられる子どもたちを育てていくことが求められているのです。

こうした子どもたちの資質・能力を育成するにあたり、「どのような授業をおこなえばいいのか」といった悩みを抱える先生は多いと思います。この「考える授業やるキット」は、そうした悩みを抱える先生にとって大きな支えとなる教材と言えます。

本教材では、どの授業プランも「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」といった探究的な学びの学習過程で構成されています。授業プランの内容をそのまま実践することで、子どもたちが「収集した多様な情報を整理・分析し、対話を通して様々な気づきを得ながら、自分の考えをまとめ、表現していく姿」を見ることができるようになっています。

各授業プラン通りの実践を通じて、子どもたちの思考力や表現力の高まりの一端を実感することができるはずです。

それでは、こうした「やるキット」の授業プランをアレンジすることの意義は何でしょうか。

大きくは、「考える授業を授業者自身も構想できるようになること」だと考えています。

それぞれの授業プランは、様々な制作者が意図をもって作成しています。

「どのような思考を働かせるか」「どのように表現させるか」など、身に付けさせたい力に合わせて展開を工夫しています。

アレンジを加えることは、こうした思考の流れをなぞりながら、自分なりに思考場面を削ったり付け加えたりすることです。

それはつまり、「授業プランをそのままおこなう」段階には見られなかった、目の前の子どもの状況に合わせて探究的な学びを意識した授業を考えることにつながっていくのです。

「授業プランを受容し、実践する」立場から、「授業を構想し、実践する」立場へと転換していくわけです。

「情報の収集」の場面を例にとって考えてみましょう。

授業プランでは、番組を情報源として活用するものが多くあります。

しかしながら、教科書や資料集といった他の教材も当然、情報源として想定できます。

プランに示されていない動画クリップもまた同様です。

情報の収集源をどこに求めるか、情報をどのような方法で収集するのか、事前に収集させておくのか。

学習方法やタイミングなどを考えても、展開は様々であると言えます。

「情報の収集」の場面を例にしましたが、こうした思考は探究的な学習過程のそれぞれの場面でおこなうことができます。

先生方にはぜひ、学級の子どもたちをイメージしながら、1つ1つの学習過程を吟味し、実態に合った授業プランを考える経験を積み重ねていただきたいと思います。

小さなアレンジであっても、授業プランを試行錯誤するその営みは、自身の「考える授業」への理解を進めることにきつとつながっていくことでしょ。

そして、得られた経験や学びの積み重ねによって、自らも「考える授業を構想する」ことができるようになっていくはず。

アレンジを加えること自体は目的ではありませんが、アレンジを加える中で身に付く「考える授業を構想する」力は、社会科に限らず各教科の学習に通用する汎用的な力として発揮されるものであり、先生方の支えとしてきつとこれからの実践に役立つはず。

2. やるキットの授業をアレンジしてみよう

授業のアレンジを考える上で、まず学級の子どもたちの実態を把握することが肝要。

「学級の子どもたちにとって、必要な力は何だろう」「そのためにはどんな授業を組んでいけばよいだろう」と考えていきます。

目指すものが決まれば、あとはそのための手段を考えていくことになります。

先生が求めるものと、子どもたちの実態を擦り合わせながら、授業プランを考えていくことで、よりアレンジの効果が高まるのではないかと期待しています。

では実際にどんなアレンジが想定されるのでしょうか。ここでは大きく「授業の流れをアレンジしてみる」「家庭での学びをアレンジしてみる」の2つに分けて考えてみることにしましょう。

(1) 授業の流れをアレンジしてみる

探究的な学びの学習過程を踏まえ、「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の各場面における授業プランのアレンジについて考えてみます。

① 情報の収集をアレンジ

● 番組や動画クリップの視聴方法について考えてみよう

情報の収集場面においては、「社会にドキリ」の番組とその関連する動画クリップを活用していくことが多くなります。

その際には、全体で一斉に視聴することが基本となるかもしれません。

しかしながら、視聴の方法はもっと多様に想定されていいものです。

グループで視聴する方法も、個々が視聴する方法も考えられます。

社会科の授業プランには、先生が視聴の方法について自由に設定してよいように促す吹き出しが載せてあります。

グループやクラスで視聴する場合は、同一の内容を同じ時間に視聴する分、全体の進み具合を調整することが容易です。

考えを表出させるための問いも、一斉に出すことで、全員の思考の流れをコントロールすることができます。

しかし、一方で、どのような問い（学習問題）をもつかや、それにどのように答えるかを、子ども自身に任せたいと思う先生もおられます。

個別で視聴するように設定したとしましょう。

子どもたちは、個々のペースで番組を視聴することになります。

個別で視聴する分、もう一度見てみたい内容について繰り返し再生するなどの子どもたちの姿が想像されます。

理解度に応じて、視聴内容を自分なりにコントロールすることが可能なわけ。

また、個別視聴で進めることで、「情報の収集」から「整理・分析」までを一連の流れでおこなわせることも可能になります。

このように自分で学習を進めることを「自己調整」と呼ぶようになりました。

「自らの学びを自分で調整する」ことを子どもたちに期待したとき、視聴方法のあり方をアレンジしてみることを検討してみるとよいでしょう。

また、その際には、「記入シート」「動画シート」「資料シート」をまとめて配布しておくなど、シートの配布の仕方について考えておくことにも留意したいです。



● 情報の収集源として他資料の活用を検討してみよう

小学校学習指導要領社会編において、小学校社会科で目指す「思考力・判断力・表現力等」の目標が以下のように示されています。

「思考力・判断力・表現力等」の目標	
3, 4年	・社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会にみられる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う
5, 6年	・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う

目標を見てわかるように、小学校社会科では、「社会的事象の特色や相互の関連や意味を考える力」や「社会への関わり方を選択・判断する力」「考えたことや選択・判断したことを表現する力」が求められています。

事象同士の関連や意味を考えたり、選択・判断したりするためには、考える素材としての「多様な情報」が必要であると考えられます。

では、どのようなものが情報の収集源として想定されるのでしょうか。

番組や動画クリップの「映像資料」だけでなく、「教科書」「資料集」「副読本」「書籍」「web ページ」「見学」「インタビュー」「自作資料」「実物資料」など、幅広い情報の収集源が想定されます。

さらには、調べていく中で得られた気付きや考え、学習をまとめたノートなども、大切な情報であると言えるでしょう。

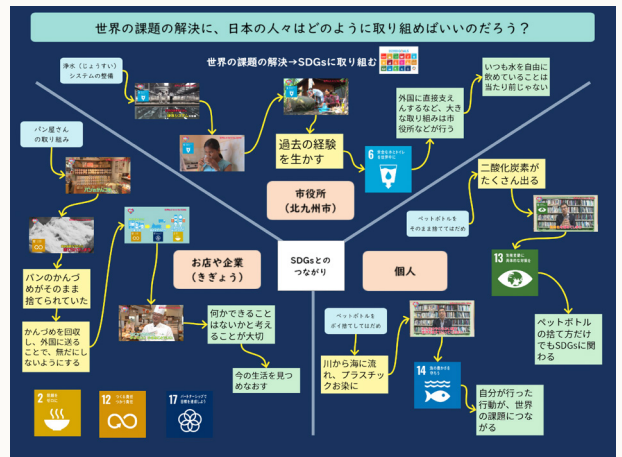
社会にドキリ『世界の人々とともに生きる』のやるキットを例に考えてみます。

番組から得られた情報は、右図のように整理されています。

しかしながら、「世界の課題の解決に、日本の人々はどのように取り組めばよいのだろう」という学習課題に対して新たな視点をもつために、教科書や資料集などを併用することも考えられます。

これまでの学習の跡が残るノートの活用でもよいでしょう。

思考ツール上に、これら資料からの気付きや考えも追加していくことで、より多面的に学習課題に対して考えることができるようになります。タブレット端末であれば、撮影して画像を挿入する形で表示させてもよいでしょう。



考えを広げるひと工夫をおこなうことで、表出される子どもたちの考えの質にも良い変化が見られるのではないのでしょうか。

② 情報の整理・分析をアレンジ

● 学習形態を考えてみよう

集めた情報を整理・分析する段階において、まず「学習形態」について考えてみたいと思います。

多様な情報の「整理・分析」は、「個人」ないしは「共同」でおこなうことが想定されます。

社会にドキリ『世界の国の人々』の「整理・分析」場面では、右図のようなクラゲチャートが用いられています。

学習課題に対する考察を得るために、「外国の人と上手に共生している」をクラゲの頭に位置付け、番組や動画クリップで得られた情報をクラゲの足の部分に整理し、分析していく流れです。



「個人編集」では、自らの思考に合わせて番組の静止画を分類し、ピンクのカードにあるような見出しを考えていくことになります。個人を進めていく分、自分なりの見方で「整理・分析」をおこなうことが可能です。

しかし、個々の力量に任されるところが大きく、程度に差が生じることも考えられます。

では「共同編集」ではどうでしょうか。

静止画の分類では、1人1人の意見を伝え合いながら、分類を進めていく姿が想像されます。子どもたちは自分の意見との違いに気づき、異なる考えの良さを感じながら、見出しを考えていくことになるでしょう。

異なる考え方への気づきは、より多様な見方の獲得にもつながり、物事を多面的に見る目を一層養うことにつながっていきます。

しかしながら、自分なりの見方で「整理・分析」を進められない分、個別に学び進めていくことができないことも同時に考えておく必要があります。

どちらにしても、最終的には思考ツールで得られた分析を俯瞰し、学習課題に対する答えを導き出すことになります。

たどり着く過程が異なるため、子どもたちが得られる学びにも違いが見られることでしょう。

実態を踏まえ、どんな学習形態が望ましいかについて検討することも、また大切なアレンジの視点であると言えます。

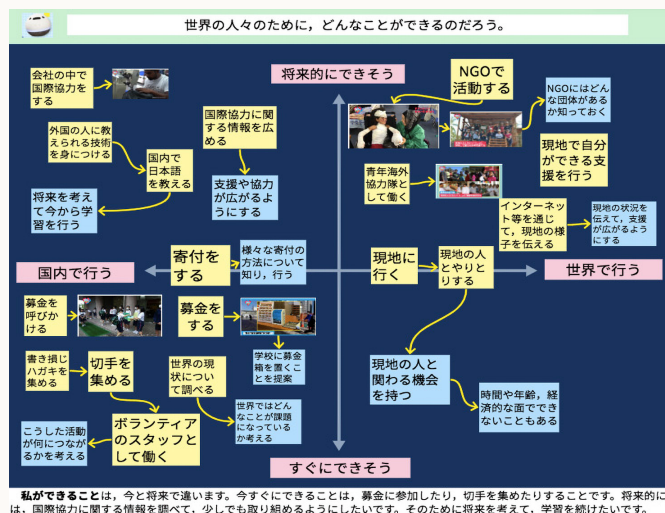
● 思考ツールを選択してみよう

「考える授業やるキット」では、社会科のどの授業プランにおいても「整理・分析」の場面で思考ツールが用いられています。

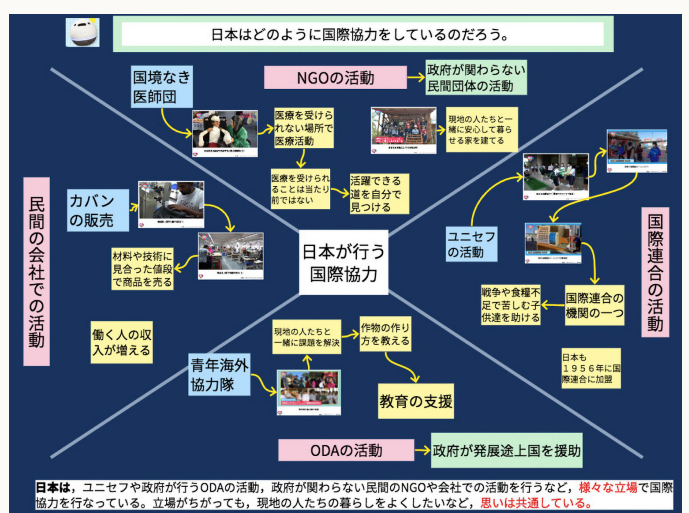
しかし活用している思考ツールの種類は、授業プランごとに違いがあります。

それは、働かせる思考スキル（＝「考えるための技法」）がそれぞれ異なるからです。

この思考スキルを意識することで、「整理・分析」の場面にもアレンジを加えることができます。



【A案】座標軸による整理



【B案】Xチャートによる整理

上図はどちらも、社会にドッキリ『世界の国々と国際協力』における「整理・分析」の場面です。

同一の番組を視聴しているにも関わらず、活用する思考ツールには違いがあります。

学習課題を見ると、A案では「世界の人々のために、どんなことができるのだろう」であるのに対し、B案では「日本はどのように国際協力をしているのだろう」となっています。

学習課題の違いは、働かせる思考スキルの違いにつながります。

つまり、A案では「番組の情報をもとに自分ができる国際協力を位置付ける」という思考が働くのに対し、B案では「番組の情報を4つの観点で分類し、日本がおこなう国際協力を多面的に見る」という思考が働くというわけです。

意図する思考スキルが違うため、整理・分析の内容も変化してきます。

授業プランをアレンジする中では、学習課題と、それに繋がる思考スキル、および思考ツールの検討を考えてみるのもよいでしょう。

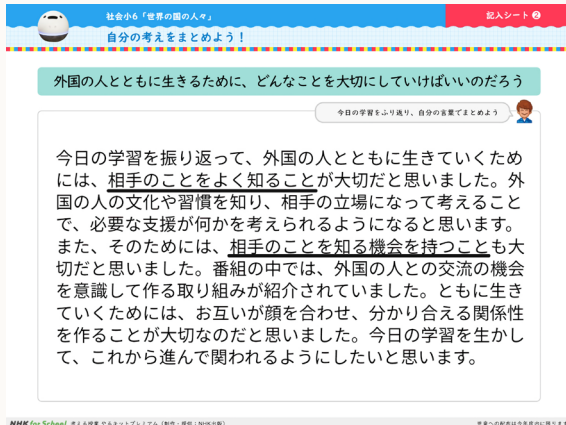
自らが思考ツールを選択することで、授業で「何を学ばせたいか」「何を考えさせたいか」がより明確になり、子どもたちの実態を踏まえる分、授業内容をより「実態に即した形」へとアレンジすることが可能になることでしょう。

しかし、いきなり考えることは難しいかもしれません。

その際には、各授業プランに示されている思考ツールの活用をヒントにし、自分なりの授業案を考えてみましょう。

③ まとめ・表現をアレンジ

● 個々の学びをこれからの学習につなげてみよう

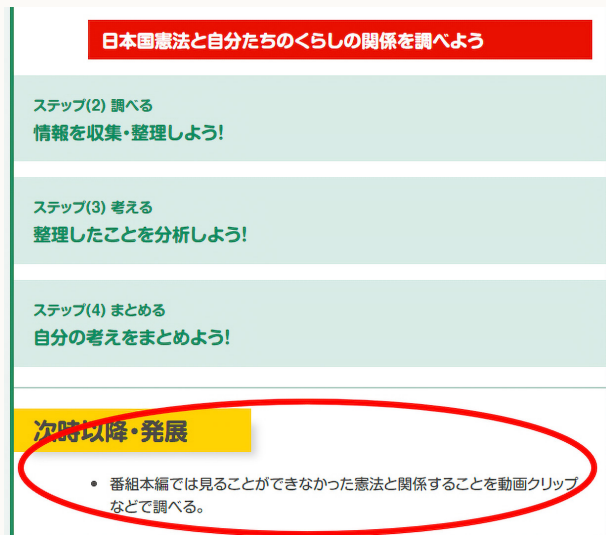


各授業プランの終末では、「整理・分析」によって得られた気づきをもとに、自らの考えを「まとめ・表現する」時間が設定されています。子どもたちは、思考ツールに整理した結果を俯瞰しながら、学習課題に対する答えを導き出すことになります。

左図のような「考えまとめシート」に、子どもたちの考えが表出されます。実態にもよりますが、考えをまとめることを不得手とする子どもたちもいることでしょう。

その際には、考えを表出させる前に、「問いかけを工夫する」「キーワードを設定する」などをおこない、まとめる際の支援とすることを考えておくのがよいでしょう。

さて、こうした「まとめ・表現」した記述はどのように活用していけばよいのでしょうか。授業場面で考えると、全体で共有する時間を設けるなどし、お互いの考えの交流をする活動が想定されます。その際には、「子どもたちの考えをこれからの学びに生かすこと」を意識できるようにしたいです。



例えば、左図は、社会にドキリ『日本国憲法』の本時の流れを示したものです。

この授業プランでは、「日本国憲法と私たちのくらしとの関係」について考えることを学習課題とし、「整理・分析」したことをもとに自らの考えをまとめていく流れとなっています。

「まとめ・表現」の段階では、「授業を通して、身近なところに日本国憲法との関わりがあることがわかった」など、子どもたちの考えが示されることが予想されます。

こうした意見を取り上げつつ、「他に憲法と自分たちのくらしにはどのような関わりがあるのだろう」と問い返すことで、子どもたちの疑問を膨らませていきます。

「次時以降・発展」で示された「番組本編では見ることができなかった憲法と関係する他の動画クリップで調べる」のような追究活動を裏支えるのは、「調べたい」という追究意欲が欠かせないからです。

そのためには、子どもたちの考えを肯定的に受容し、さらなる学びにつなげる意識が大切であると考えています。

また、次時の学習に生かすことも検討してみましょう。

個々の考えは、導入場面で言えば「学習課題を設定する」「学習の動機付けとする」などの活用の仕方が想定されます。

「まとめ・表現」で言えば、「過去の自分のまとめ方を比較し、自分の考えを見つめ直す材料」となるかもしれません。

「まとめ・表現」において表出した考えを本時で留めておくのではなく、学びのつながりを意識して、その活用を考えてみるとよいでしょう。

(2) 家庭での学びをアレンジしてみる

タブレット端末が1人1台、整備されたことにより、端末活用を念頭にした、家庭での学びと授業での学びとの関連を考えることができるようになりました。

家庭でどのような学びができるか、授業にどう生かせるのか、についても考えてみます。

番組や動画クリップを「家庭」で視聴してみよう



「授業の流れをアレンジしてみる」では、授業における視聴方法について考えてみましたが、視聴タイミングはいつがよいのでしょうか。

当然、授業では「授業内」であることが要件であると言えます。その場合は、動画クリップを見切れないこともあるかもしれません。想定していた情報を、十分に収集できない可能性もあり得ます。「多様な情報の収集」を想定する場合、授業内に拘（こだわ）ると、難しいところも出てくるかもしれません。

そうしたときには、家庭での「事前視聴」を考えてみましょう。情報は、授業の流れの中で収集することが全てではありません。

上記の動画シートを事前に配布し、家庭で見えておくように促すことで、時間の制約を気にせず子どもたちが個人のペースで情報を収集することができます。

家庭で情報収集をおこなうことで、授業で「整理・分析」にかける時間を増やすことができます。

じっくりと「整理・分析」が進められると、「まとめ・表現」に表れる考えの質にも高まりが見られるかもしれません。

また、事前視聴の動画クリップを子どもたち自らが選ぶことも考えてみます。

その際には、学習課題のシートを配布しておき、学習課題に答えるための動画クリップを自由に家庭で視聴するように促すことになるでしょう。個々に情報の収集が任せられるため、その程度には個人差が表れることが予想されますが、自分の興味・関心に合わせて選択できる分、主体的に学習する姿が想像されます。

授業でお互いが収集してきた情報を伝え合うと、1人1人に違いが見られ、より多様な見方ができるようになるかもしれません。

「家庭での学びを授業に生かす」「授業での学びを家庭に生かす」といったつながりを考え、授業プランのアレンジを進めていくことも大切な視点であると言えます。

3. 終わりに

「考える授業やるキット」に示されている各授業プランを見ると、授業の基本構造は同じでも、それぞれには細かな違いがあります。それは、「どんな思考を働かせるか」「どんな表現をさせるか」といった作り手の意図や目的が異なるからです。つまりそこには、それぞれの「考え」や「思い」があるのです。

授業のアレンジにも、同様のことが言えるかもしれません。

授業者の意図や目的があってはじめて、アレンジをする意味が出てくるのではないのでしょうか。

ここに載せたアレンジの方法は、ほんの一例です。

いきなりすべてをアレンジすることを求めているわけでもありません。

これらをアイデアとして活用し、「まずはできるところから」はじめてみるのがよいでしょう。

教室の子どもたちを思い浮かべながら、ぜひさらなる展開案を考えてみて下さい。